

# NEWS

## 試される日本の外交



### まぶち会のご案内

私は「渴しても盗泉の水を飲まず」の言葉のもと、利権ではなく信念に基づいた政治を行うため、一円たりとも企業献金を受けず、政治資金パーティーも行っておりません。私の政治活動は「まぶち会」に入会してくださった方々からの年間寄付金(個人献金)によって支えられています。

主旨にご賛同頂ける方は、お気軽に下記までご連絡ください。

まぶちすみお後援会事務所

0742 (40) 5531

www.mabuti.net

まぶちの「不易塾日記」好評連載中

北朝鮮は3日、「ICBM(大陸間弾道ミサイル)に搭載するための水爆実験に完全に成功した」と発表しました。

#### ◆挑発の裏にある「焦り」

北朝鮮は昨年から急速に核実験頻度を上げ、今年にかけて既に3回もの核実験を行っています。同時に弾道ミサイルの発射も繰り返し、挑発はエスカレートする一方です。

この背景には、金正恩委員長「の「焦り」が見え隠れしています。

2011年の金正恩体制の発足後、北朝鮮国内では政府高官の肅清が相次ぎ、今年には兄の金正男氏までもが暗殺されるなど、上層部の間には金正恩委員長に対する不信感が広まっていると言われてい

ます。対外的にも、国際社会による経済制裁に加え、アメリカ軍が金正恩委員長を直接排除する作戦を検討していると報道されています。

このように国内外から圧力が高まる中、国内的には強い指導者としての威厳を高める材料が、そして国外に向けては体制の維持を保障させるための交渉材料が必要となります。

その条件を2つ同時に満たすのが、核兵器と弾道ミサイルの開発を強行的に進めることであり、実験成功をアピールし続けることであるというわけです。

#### ◆圧力&対話による解決目指せ

これに対し安倍総理は、「国際社会と連携して断固たる対応を取る」とし、河野外務大臣も「今は圧力を最大限かけるとい

う時期であって、対話を持ち出す状況ではない」と述べています。国際社会と連携した圧力の強化には賛成しますが、これまでの北朝鮮が圧力を強めれば強めるほど挑発をエスカレートさせ

てきたことを考えると、それだけで譲歩を引き出すのは困難であり、逆に追い詰め、暴発を招くという結果にもなりかねません。

北朝鮮が体制維持を意図している以上、その崩壊が確実なアメリカとの武力衝突は避けたいのが本音のはずです。一方、アメリカも武力行使を選択肢に挙げてはいますが、甚大な被害が生じる可能性があるため、慎重な姿勢を取っています。

本来どの国も軍事オプションを望まないにもかかわらず、武力衝突が発生してしまうとしたら、それは全ての当事国にとっての「外交的敗北」とも言えるでしょう。

#### ◆日本外交の覚悟が問われる

我が国は、唯一の戦争被爆国であり、国内には実際に核兵器の脅威を目の当たりにした方が多数いらっしゃいます。

一連の北朝鮮の行為は決して許されるものではありませんが、米朝間の緊張が高まるなか、悲惨さを知る我が国だからこそ、圧力とともに対話を見ずえた冷静な外交が求められています。

かきとなるのは中国です。北朝鮮は食料や石油などを中国に依存しているため、中国と連携し、圧力の強化や交渉についての模索を行うことは必要不可欠です。

総理は核実験が行われた当日、アメリカ、ロシアとは電話会談を行いました。今後は日中間でも北朝鮮問題について緊密な連絡と協議を行える態勢を作らなくてはなりません。

国際社会は、北朝鮮の核武装を許さないという点で一致しています。どんなに困難な状況でも解決に向けた糸口はあるはず。外交的解決実現のため、日本の覚悟と胆力が今、試されていると考えます。(了)